

# 「I LOVE ME」といえる子育て

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 園長 田中啓昭



個性を大切に

「I LOVE ME」。あなたは自分のことが好きですか？「自分に自信を持ち、自分のことが好きで、自分が人や世の中から必要とされている」というように、自分の存在を肯定的に感じたり、とらえることを「自己肯定感」「自己重要感」といいます。日本の子どもは、この「自己肯定感」が海外の子どもに比べて極端に低いようです。その要因は様々でしょうが、私は親の養育による影響がかなりの比重を占めていると感じています。大人が無意識に投げかける否定的な言葉や、行動を制限する言葉が知らず知らずのうちに子どもの伸びていくこうとする力を奪っている

のです。「あなたはダメな子」「どうせ無理」など、その時の感情を吐き捨てるかのごとくいい放つそのひと言が、可能性を秘めた子どもの明るい未来を蝕んでいってしまうのです。そんな時、一度、立ち止まって考えてほしいことがあります。子育てで大切にしていることはどんなことでしょうか？どのような思いでしつづけていますか？

のようにはあなたに期待通りにすべてができるわけではありませぬ。私は、わが子が将来こんな大人になつて欲しいなという将来像を思い浮かべつつ、コミュニケーションを通じて子どもたちの夢や希望とすり合わせをする。そして、そんな将来に向かって子どもが自らの能力をフルに発揮し、成長し、生きていくためのサポートをするのが親の役目であると感じています。その思いを、子育ての根

幹においています。親ができることは、結果よりはプロセスを大切にサポートです。「できること、できたこと」よりは「やろうとしたのか、がんばったのか」。

とはいっても、現実問題、比べる対象がなければ、親も自分の子育てに自信を持つことなんてできないですよ。そんな時は、周りの子どもではなく、その子自身の成長の過程を比べてみるのです。つまり、どれだけ成長したのか。どれだけできているようになったのか。その子自身が以前より少しでも成長していることを親子で喜び合い、実感してみることも必要ですね。親の目線から子どもの目線へ降りて、子どもの努力や成

成長をサポートしよう！



長を通してその子自身を認めることがとても大切なのです。もうひとつ大切な視点は、「人の役に立つ喜びを感じる」ということ。人の役に立つことと、「人から必要とされている」と感じることはできるのです。寝屋保育園では、「人の役に立つこと、人のために動くこと」の喜びを感じてほしいという思いのもと「当番活動」をおこなっています。ご家庭でも新聞をポストからとってくるなど、家族の一員としての役割を与える当番活動や料理、洗濯など家事のお手伝いを通じて、人の役に立つ喜びを育てていくことができるのではな

いかと思うのです。このように、子どもの可能性を信じ、大人が側面的にサポートしていくことで子どもの「自己肯定感」を育てていくことができるのではないのでしょうか。

そう考えると、子どもの可能性を信じず、現状だけで判断をし、あたかも大人のミニチュアのごとく扱い、親が自分の感情のままに子どもの人格を否定することく罵倒する、「怒る」という感情を、「しつけ」という都合のよい言葉でオブラートに包む、というように、大人中心の価値観を子どもに一方的に押し付けていることが、日本の多くの子どもに「自己肯定感」を持ってなくさせているのかもしれないね。子どもも大人と同様に、「人から(特に親から)認められたい、人の喜ぶ顔が見たい」という承認欲求を持っています。そこをうまくくすぐりながら、子どもが自分に自信を持ち、自分のことが好きになり、「I LOVE ME」といえる。そんな子育てをしたいものですね。